

1 趣旨

「学童クラブ」の運営は、それ自体が子育て運動といえるでしょう。おおぜいの子どもたちと保護者、そして指導員の大家族といってもいいかもしれません。お互いが、お互いの足りないところを補いあい、協力して、育て、育ちあう場です。

しかし、保護者と指導員の努力、協力のみでは子育てと子どもの健やかな成長を援助することはできません。職場の理解、地域の人たちの協力、ひいては社会全体が子育てを援助し、子どもたちが健やかに成長することのできる環境を整える必要があります。

私たちの活動の目的は、保護者と指導員、そして地域の人たちが互いに理解しあい、協力して子育てと子どもの成長を援助しあう「子育て運動」と、子どもたちが安全で健康に育つ環境、保護者が子育てをしながら安心して働ける社会を築く「まちづくり運動」の両輪によって達成されるものといえます。

今後は学童に通う子どもたちや保護者だけではなく、地域の人たちの子育ての相談や交流の場としての役割も担う必要があるでしょう。

学童の施設や運営、保育の内容がどんなに充実したとしても、子育ての主役はやはり保護者です。しかし、労働基準法、男女雇用機会均等法が「改正」され、私たちの仕事を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。男性も女性も、ゆとりをもって働き、仕事と子育てが両立できる社会の環境を整えることは私たちにとって重要な課題と言えます。

学童が地域に存在すること自体が、また、私たちの活動を地域の人たちに理解してもらうこと、仕事と子育てが両立する社会をつくることは、広い意味での「まちづくり」といえるでしょう。しかし、ダイオキシンをはじめとする環境汚染、通学路の歩道の整備などの子どもたちの安全確保など、直接的に子どもたちが健やかに成長するために私たちの地域、所沢をどのような町にしていくのかということも今後取り組む必要のある課題です。

2 申請に至るまでの経緯

所沢の学童保育は、35年ほど前、共同保育所卒園児の保護者を中心に「つくり運動」が始まりました。1967年に新所沢地域に公立学童保育所が開設されたのを皮切りに、翌年にこぶし団地、その翌年に狭山ヶ丘

に民家を借りての共同学童保育所がスタートしています。

1972年に所沢市学童保育連絡協議会(とこれん)が結成され、市に対して公立学童の設置と補助金の増額を要求する一方、市内に学童クラブをふやすために、地域のつくり運動を支援してきました。

「とこれん」は、当初から、市内学童クラブの統一を視野に置いていましたが、1980年以降、補助金に頼る運営に不安もあり、全市的に運営を支え合うことが大きなテーマとなりました。

そして段階的な統一化を模索して、当時すでに合同運営をしていた新所沢地区を手本に、各地区は自発的にブロック合同運営化を図っていくことになり、1984年から2年余りで市内の全ブロックが結成されました。

所沢の学童クラブの財政は、指導料と、運営費のおよそ半分が市の補助でまかなわれ、足りない分を事業活動で補っています。

このような共同運営のもとで、運営を安定的に維持し、長く働き続けるよう指導員の処遇を統一的に改善するうえで、ブロック運営は大きな役割を果たしてきました。

しかし、ブロック運営は、同じ市内で指導料の格差があり、また、指導員の配置や移動にも限界があること、各ブロックは、数千万円の予算規模で十数人の職員を抱える事業所でありながら、専任の事務職員を置かず保護者、指導員が運営を担っていく今のスタイルを続けていくには不安が多すぎます。

「とこれん」は、1996年の総会で統一化3ヶ年計画を決定し、全市的統一運営へ向けて具体的な提案をしました。翌1997年に「所沢市学童クラブの会」を設立し、統一運営体としての組織整備をはじめました。

そして1998年11月の臨時総会において職員・指導員の雇用の一本化を実現しました。

この間、理事会、評議員会を始め各委員会、指導員部会などで統一運営の実現に向けてさまざまな議論がされ、提案が行われました。

今年度の総会において、全市的統一運営が実現することを機に、学童クラブを市民みんなの財産とする運動をさらに進めるため、特定非営利法人「所沢市学童クラブの会」を設立するものです。

さらに、多くの市民の理解と協力を募り、所沢市の子育てとまちづくりの実践の場として設立しました。